



An Old-World warbler dreams of the south. In Helsinki.

2012年

ドローイング・インスタレーション(太陽で感光したジアゾ紙[展示構造は可変])

45x53 cm

ヘルシンキの観光地図に手を加えたドローイング作品。そこでは地域と通りの命名にまつわる地元の小話の数々を辿り、無邪気な空想から見た生活の特性や価値感に想いを馳せ、南北問題を別の視点で見つめている。

フィンランドのなかのアラビア

2010年5月にヘルシンキを訪れ、街の北にあるアラビアンランタ(アラビアの海岸)という名の地域を知ることになった。19世紀に、この地域が街から遠く離れていたことから、彼方の国々に照らして名付けられた。その後、人々が夏の別荘を持つ郊外となり、インド、韓国、シリア、コンゴといった異国情緒溢れる名前を通りに付けた。極東、中東、アフリカに因み、地理的にごった混ぜ。これらの通りの名を見ると、長い冬の間、スカンジナビアの人々が太陽を恋しがり、暖かい国々を空想している様子が思い浮かぶ。

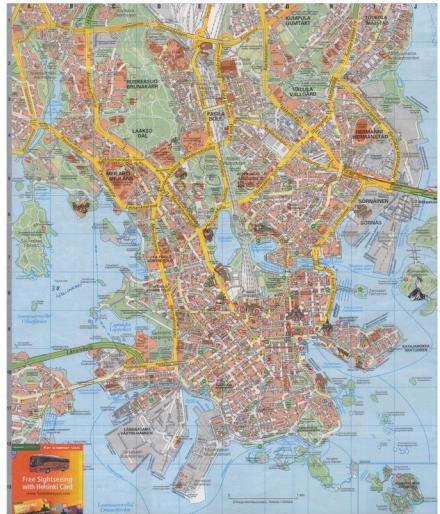
想像の渡り

ヘルシンキの観光地図の、通りと地域の名前だけを抽出し、暖かく、遠く離れた地の名を冠した通りだけ印をつけた。スカンジナビアの弱い冬の光を光源に、その地図を紫外線に反応するジアゾ紙で複製した。そこに現れたのは、暖かい場所の名前がついた通りが、より「日焼け」したヘルシンキの青い地図だった。

作品の題名は、ヘルシンキにいる渡り鳥で、アジア、アラビア、アフリカの国々に旅するキクイタダキから名付けた。

ハイライト

ドローイングはさまざまなかたちのインスタレーションとして発表してきている。アーツ前橋での展示では、什器の上にガラスの箱でカバーをし、その上に拡大鏡をおいて展示。「アラビアの海岸」という地域の詳細が見やすいように、また光を集めてその地域がより明るくなるように、拡大鏡を配置した。



(左頁)手を加えた地図をジアゾ紙に重ね、スカンジナビアの冬の陽射しに露出して複製した地図(右頁、上から)元となったヘルシンキの観光地図;「アラビアの海岸」と呼ばれる地域とアジア、中東、アフリカの場所の名がついた通り;拡大鏡によって「アラビアの海岸」がハイライトされたインスタレーション風景

